

佳作

親切にするとは

新潟県新潟大学教育学部附属新潟中学校一年 瀬高 莉央

私は新潟市に住んでいる。新潟というと、雪がたくさん降ると思われがちだが、新潟市街地では、雪はほとんど積もらない。

それでも、雪国ならではの先人の知恵のようなものはある。

私の祖母は、

「雪国に住んでいるのだから、大雪が降って、困ったとか、大変だとかばかり言っではいけないよ。雪遊びは楽しいし、雪が降るから、お水もお米もおいしいんだからね。しかめっ面ばかりしていちやいけないよ。」

といつも言っている。だから私は、小さい頃から、雪は楽しいものだと思って育った。

ところが、今年の冬は違った。八年ぶりの大雪で、一晩で八十センチも雪が積もったのだ。学校が休校

になったり、電車が立ち往生したりしたことは、全国ニュースでも大きく報道された。まちがいなく、「困った、大変な」事態であった。

天候が回復してからも、「困った、大変だ」は続いた。あちこちに大きな雪山ができ、車の往来をばんでいた。ふみ固められた雪は、デコボコしたまま凍り、歩道はとても危険だった。

バスに乗るのも一苦労だ。塾の帰り道、私はバス停に並んでいた。何分待ってもバスは来ず、バス停の行列も長くなっていった。雪で狭くなった歩道で、他の歩行者のじゃまにならないように立っているのは、気を遣うし、だんだん辺りも暗くなってきて、心細い気持ちでいっぱいだった。

私の前に並んでいる小柄なおばあさんも、大きな荷物を持って、とても大変そうだった。みんな不機嫌そうに、黙って並んでいた。

ようやくバスが来た時、私とおばあさんの間に、男の人が割り込んだ。

「ずっと並んでいたのに、ひどい」と思ったが、大人に文句を言うこともできずに、黙って男の人の背中を、にらみつけた。前のおばあさんは、後ろの事件には気が付かずに、バスの乗り口の前の雪山を

危なっかしい様子で登り始めた。すると、先ほど割り込んできた男の人が、さっと手を出し、おばあさんの手を取ってバスに乗る手伝いをしてあげていた。そして、おばあさんが無事にバスに乗り込むと、その男の人は何も言わずに、立ち去っていった。

おばあさんは、助けてもらった事にも気が付いていない様子だった。もちろん、お礼も言っていない。本当の人助けとは、こういうことを言うんだなど、強く心を打たれた。

人に親切にするのは、簡単なようで難しい。はばかりかかったり、遠慮したりして、なかなか出来ないものだ。しかし、しかめっ面をやめ、心に余裕を持って、一步をふみ出せば、誰かにとっての親切になるはずだ。バス停で見た男の人のように、「ありがとう」の言葉も期待せずに、自然と親切な行いができるように成長していきたいと思う。